

令和 8 年度第 1 回伊勢市子ども・子育て会議 議事要録

日 時	令和 8 年 8 月 6 日(木) 15:00～16:45
場 所	伊勢市役所本庁舎東館 4 階 4-3会議室
出席委員	中條委員、秋山委員、花田委員、右京委員、水野委員、森本委員、中村委員、石井委員、湯田委員、加藤委員、川合委員、長岡委員、金田委員、森井委員、笠木委員、團野委員
事 務 局	健康福祉部長、同次長、子育て応援課長、同子育て応援係長、同こども育成係長、同主事2名、保育課長、同保育係長、同施設運営係長、高齢・障がい福祉課長、福祉総合支援センター副参事、同孤独孤立対策係長、同こども家庭相談係長、健康課母子保健係長、こども発達支援室長、福祉監査室長、同法人・施設係主査、商工労政課労政係長、教育総務課長、学校教育課指導係長、社会教育課長
そ の 他	案件審議のために出席するもの 有滝保育園理事長、同園長
傍 聴 者	1 名
資 料	資料 1 人口減少地域における教育・保育の提供体制の確保について 資料 2-1 伊勢市こども計画の令和7年度事業実績について 資料 2-2 伊勢市こども計画 令和7年度実績報告シート 資料 2-3 伊勢市こども計画の令和8年度事業目標設定について 資料 2-4 伊勢市こども計画 令和8年度目標設定シート 資料 3 満3歳以上限定小規模保育事業の認可について

議 題

- (1) 人口減少地域における教育・保育の提供体制の確保について
- (2) 伊勢市こども計画の令和7年度事業実績報告及び令和8年度事業目標設定について
- (3) 満3歳以上限定小規模保育事業の認可について

・事務局より会議公開の説明、新委員の紹介、資料確認、会議成立の報告

【事務局より】

議題(1)について説明(資料1)

(「●」は委員意見、「→」は事務局回答を表す)

●伊勢市全体が「人口減少地域」という共通認識はあるか。

→国が定める半島振興法の指定地域に含まれていることから、市としても国と同様に人口減少地域であると認識している。

●特別地域保育体制確保対応加算は月額のようなが、途中で人数が増えると次の月からは加算されなくなるのか。

→その通りである。ただ給付費や次年度に向けて子どもが増えた方が本来は良い状況であり、月額での対応となっている。

●園の運営が赤字のため、国から補助が出るのは、園としても伊勢市としても助かると理解してよいか。

→はい。人口の少ない地域でも保育を継続するための制度になっている。

●小さな過疎地域に生まれた子どもたちが遠くの園に通わなければならない状況がある。子どもはみんな平等に育つ権利があるので、国が補助していただけることは本当にありがたい。他の大きい園も含めて保育園がなくなっていくような対応をしてほしい。

●規模の小さい保育園でこれだけの対応をするのは大変であるし、市全体の保育園が苦勞されている。連携する保育園に対する手当は何もないのか。

→連携する保育園に対する補助は今のところないので、今後国や県への要望を検討していきたい。

●本園も他の園と交流したいが移動手段がない。

→今回の交流は防災の観点の協定に基づく活動だったので市からバスを貸し出した。

●バスを借りる要件が非常に難しいので、もう少し緩和していただくと交流事業も進むと思う。

●他園との交流などでは、補助金だけでは賄えない部分もある。市においてはバス使用の要件を緩和していただくなど状況に応じた支援をいただくよう要望としてお伝えさせていただき、本件の協議は以上としたい。

【事務局より】

議題(2)について説明(資料2-1、2-2、2-3、2-4)

●こどもの権利擁護について、成果を具体的に詳しく教えてほしい。

→令和7年度の実績として、表が子ども向け、裏が保護者向けとなっているこどもの権利に関する啓発チラシを、市内幼保育園や私立を含む小中学校、高等学校に約1万8000枚配布した。

●子どもたちのスマートフォン依存が高く、人格形成、健康、学力向上が危惧されるが、それに対応する支援は何か。

→講演による啓発や予防教育を行うほか、健康福祉部でも職員研修や保護者啓発を実施している。また、今年度は児童生徒や就学前児童の保護者を対象としたスマートフォンの使用状況のアンケート調査も予定している。

●ショートステイの利用者が少なかったのは予約制だからではないか。ファミリーサポートは1時間800円でボランティアのように頑張っており、突然の依頼にも対応している。提供会員をもっと増やしたいが、みなさん仕事があったり長時間の講座等の要件もあるため、希望

者が集まらない。

→現在は講座テキストが無料となっている。提供会員やその希望者の負担軽減を図りつつ、増やしていけるよう検討していきたい。

→ショートステイは保護者の急な病気や気持ちの負担等の訴えにも施設と調整して対応しているが、2歳未満の子どもは津市の乳児院での受け入れとなるため、受け入れ施設を増やすなど取り組んでいる。

●ショートステイなどについては、目標を達成したかどうかよりも、利用希望者が少ない理由の特定が要点。必要がなかったから少ないのか、または利用しにくさや周知不足のために少ないのか。

→昨年度、「子どもを預けたいが津は遠いので諦めます」という方がみえたので、今後受け入れ施設が増えるように取り組んでいく。

●小学校の歯科検診で受診勧告があっても未受診が68%ある。子どもの健康状態に対して無関心な保護者もいる。1歳半や3歳児健診後のフォローアップはどうなっているのか。

→健診時に受診を促すが、その後治療を行ったかの確認はしていない。虫歯が多くネグレクトが疑われる場合は、養育の面でのフォローとして保護者に受診を勧めるなどしている。

→学校では、4～6月の検診結果をもとに保護者へ通知し受診を促したり、あまりにも虫歯が多い場合は夏休み前の懇談で保護者へ強く働きかけている。また、先日の養護部会では、受診割合を把握するよう依頼した。

●伊勢市等で公立のフッ化物洗口が進んでいるが、私立保育園等にも行政として協力をお願いしたい。県の事業であるが、実施する園は手挙げ方式であるため、手が挙げられないと事業が廃止されるおそれがあるのではないかとと思う。

→伊勢私立幼稚園・認定こども園協会にも案内し、取り組みが進むようアプローチしていきたい。

●放課後児童支援員や保育士の確保が全国的な課題である。伊勢市としてどのような採用・定着・育成策があるのか。

→放課後児童支援員認定研修やその他講座の案内を行っている。今後、補助員の募集などの仕組みを考えていきたい。

●児童館や放課後児童クラブで子育て相談を受けることが増えてきている。各児童館等に相談先のチラシを設置できないか。また、相談機関において相談の多い項目は何か。

→子育て支援センターでは保育所の利用方法や発達発育の相談、子どもの生活習慣やしつけの相談が多い。それに対しては、保育士がそれぞれの保護者の立場に立ちアドバイスや指導を行っている。

●生成AIチャットボットを作るとか、QRコードでアクセスできるようにするといったいいのはいか。

→7月10日からホームページやLINE上でAIチャットボットの運用を開始した。24時間365日、行政サービスや相談先をご案内することができる。

→本会議の資料に「つながりサポートリスト(子ども・若者版)」を配布している。大人版もあり、子ども・子育てのキーワードに応じた相談先も一覧にしているので、放課後児童クラブにも

配布したい。

- 病児保育の指標が箇所数だけである。利用実態や使いやすさを検討する指標がないのはどうか。

→ご意見として賜りたい。

- 病児保育については、こども計画(P.88)において利用者数を 478～533 人と見込んでおり、それに対して定員 960 人を確保することとしている。この確保を達成するには現段階では施設は1か所でよいということで達成としている。

- 子どもの虫歯について、親の同意が得られない場合、子どもの権利を守るために伊勢市が覚悟を決めて親権停止してでも治せるようになるという。

- 訪問看護ステーションが不登校児を訪問する事例は伊勢市にあるか。医師が指示書を書く
と保険が効くと聞いた。

→詳細は把握していないが、訪問看護の職員がおそらく不登校児の自宅に行っているという話は聞いたことがある。

- 指標の数字だけでは見えない部分もある。実際の対応の中で利用者から寄せられる声を聞いて、取り組みを進めてほしい。

【事務局より】

議題(3)について説明(資料 3)

- 今回の申請内容は条件を満たしていると判断してよろしいか。

→仰せの通り。

- 他にご意見もないので、お認めいただいたものとして本議題は終了する。

【事務局より】

その他について説明

- AI チャットボットを使ってみた。便利であったのでしっかりと宣伝してほしい。データの元になるホームページも各課で充実させてほしい。また、「こども発達支援室」という名前は、保護者が拒否反応を示すことがある。「スマイル」のようにプレッシャーを感じない愛称を検討してほしい。

→愛称を検討する。